

令和7年度 「家庭総合」 (前) シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
必修	2	前期	普通科・衛生看護科	1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)		家庭総合 自立・共生・創造(学習書:NHK 出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
7(水1)	4	前期1回	前期4回	

○「家庭総合(前)」の学習目標

- ・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、福祉、消費生活などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- ・家庭や地域及び生活の中から課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善したことを表現するなど、生活課題を解決する能力を養う。

○ 学習内容の概要

- 第1章 生涯を見通す
ライフステージの特徴と課題、意思決定の5段階、生活設計を学びます。
- 第2章 人生をつくる
多様なライフスタイル、家族と法律、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題を学びます。
- 第3章 子どもと共に育つ
命を育む、乳幼児期の心身の発達と生活、これからの保育環境を学びます。
- 第4章 超高齢社会を共に生きる
超高齢・大衆長寿社会の到来、高齢期の心身の特徴、自立を支えるための支援方法を学びます。
- 第5章 共に生き、共に支える
私たちの生活と福祉、社会保障の考え方を学びます。
- 第9章 経済生活を営む
①消費生活における意思決定の重要性と情報の活用、契約の重要性を学びます。
- 第10章 持続可能な生活を営む ①持続可能なライフスタイルの実現を学びます。

○ 家庭科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

- ・通信制での学習は自学自習が基本です。自分で調べ、自分で考え、その学習成果をレポートで提出することです。学習したことを日々の生活に生かし、豊かな生活をめざしましょう。
- ・スクーリングにも積極的に出席し、様々な人々との会話を通して、自分の考えを深めていきましょう。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	20	日	オリエンテーション 生涯を見通す 人生をつくる	ライフステージの特徴と課題を理解し、生活設計を考える。ライフスタイルの多様性を理解し、生涯を見通して自分のライフスタイルを考える。	R1回
2	4	23	水	補充スクーリング	1回目のレポートの復習・質問	R1回
3	5	11	日	家族・家庭を見つめる 命を育む	家族や家族と法律を理解する。家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について考える。命に対する責任や、子どもが持っている能力や心身の発達について理解する。	R1回 R2回
4	5	25	日	子どもの発達と保育 超高齢社会を共に生きる	子育て環境の変化や課題について理解する。高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題について理解する。	R2回 R3回

5	6	8	日	超高齢社会を共に生きる 共に生き、共に支える	自立を支えるための支援方法を理解する。 生活を支える福祉や社会的支援について理解する。	R3回
6	7	6	日	経済生活を営む	現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。	R4回
7	7	27	日	持続可能な生活を営む ホームプロジェクト	持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。 ホームプロジェクトの意義を理解する。	R4回

(1)前期4回のスクーリングへの出席が必要です。

(2)放送視聴は1回分のみ認められます。(学習の手引きp40～42)

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	28	水
締切日②	2	6	25	水
締切日③	3	7	23	水
締切日④	4	8	27	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出したり、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

○テスト

	期間	出題内容
前期	7月上旬頃～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポート：第1回～4回 教科書：第1章から第5章、第9章①、第10章①

○レポートについて

(1)前期4回の提出が必要です。レポートを提出すると、添削指導をします。

(2)レポートの合格は、すべて解答してあり80%以上の正解が必要です。

(3)解答欄に空欄がある場合は再提出をしてもらう事があります。

(4)合格した場合は、次のレポートに進みます。

(5)再提出の場合は間違えた箇所を再度解答、提出してください。合格したら次のレポートに進みます。

(6)レポートは全て両面印刷です。確認して取り組んでください。

(7)4回目のレポートは2枚目があります。AかBのうち、1つ選んで取り組みましょう。

○評価について

(1)評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	家族・家庭、福祉、消費生活について生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	家庭や地域及び生活の中から課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善したことを表現するなど課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	自分で調べ、自分で考え、生活の中で実践しようとしている。他者の意見を聞いて自分の考えをまとめることができ、課題の解決に対して主体的に取り組み、振り返って改善しようとしている。

(2)評価方法と評定

(a)評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b)評定

前期の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

令和7年度 「家庭総合」 (後) シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
必履修	2	後期	普通科・衛生看護科	1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)		家庭総合 自立・共生・創造(学習書:NHK 出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
7(水1)	4	後期1回	後期4回	

○「家庭総合(後)」の学習目標

- ・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、消費生活、衣食住などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- ・家庭や地域及び生活の中から課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善したことを表現するなど、生活課題を解決する能力を養う。

○ 学習内容の概要

- 第9章 経済生活を営む
②消費者の権利と責任、ライフステージと家計を学びます。
- 第6章 食生活をつくる
食生活の課題、栄養と食品、食品の選択と安全、食生活の文化と知恵、調理の基礎を学びます。
- 第7章 衣生活をつくる
被服の役割、被服の入手と管理、これからの衣生活を学びます。
- 第8章 住生活をつくる
住居の機能、安全で快適な住生活、住生活の文化と知恵を学びます。
- 第10章 持続可能な生活を営む
②持続可能な消費や生活を学びます。
- 第11章 これからの生活を創造する
自分らしい生活の実現と生活設計を学びます。

○ 家庭科からのメッセージ…(学習の態度・心構え)

- ・通信制での学習は自学自習が基本です。自分で調べ、自分で考え、その学習成果をレポートで提出することです。学習したことを日々の生活に生かし、豊かな生活をめざしましょう。
- ・スクーリングにも積極的に出席し、様々な人々との会話を通して、自分の考えを深めていきましょう。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	10	12	日	オリエンテーション 経済生活を営む 食生活をつくる	消費者保護制度を理解する。生涯の経済生活と家計について考える。中学校までの振り返りと食生活の課題を考える。	R1回
2	10	26	日	食事と栄養・食品 食品の選択と安全 調理の基礎	食生活の変化を理解する。栄養素とその食品を理解する。食品の選び方、表示など理解し、安全な食生活を考える。調理の基礎を理解する。	R1回 R2回
3	11	16	日	食文化 被服の入手	日本や世界の食文化を理解する。 被服の役割、被服材料の性能を理解し、既製服購入までの方法を理解する。	R2回 R3回
4	11	30	日	被服の管理	洗濯の方法や洗剤の種類を理解し、自分の衣服	R3回

				持続可能な衣生活	を管理する方法を考える。 環境に配慮した衣生活、購入から廃棄までの消費行動を振り返り、持続可能な衣生活を考える。	
5	12	14	日	住生活をつくる 健康的で快適な住生活	住居の機能、平面図を理解する。自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照などの環境を理解し、快適かつ健康、安全な住生活を考える。	R3回
6	12	21	日	住生活の文化と知恵 持続可能な生活と消費 自分らしい生活の実現	気候や風土の違い、時代の変化によって、異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。持続可能な消費や生活を理解し、ライフスタイルを考える。 自立して生きていくための目標を立てる。	R4回
7	1	21	水	補充スクーリング	レポートの振り返り、テスト対策	

(1)後期4回のスクーリングへの出席が必要です。

(2)放送視聴は1回分のみ認められます。(学習の手引きp40～42)

・レポート提出締切

締切日	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	10	29	水
締切日②	2	11	26	水
締切日③	3	12	24	水
締切日④	4	1	21	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出したり、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出したりはできません

○テスト

	期間	出題内容
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポート：第1回～4回 教科書：第6章から第8章、第9章②、第10章②

○レポートについて

(1)後期4回の提出が必要です。レポートを提出すると、添削指導をします。

(2)レポートの合格は、すべて解答してあり80%以上の正解が必要です。

(3)解答欄に空欄がある場合は再提出をしてもらう事があります。

(4)合格した場合は、次のレポートに進みます。

(5)再提出の場合は間違えた箇所を再度解答、提出してください。合格したら次のレポートに進みます。

(6)レポートは全て両面印刷です。確認して取り組んでください。

(7)4回目のレポートは2枚目があります。AかBのうち、1つ選んで取り組みましょう。

○評価について

(1)評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	消費生活、衣食住について生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	家庭や地域及び生活の中から課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善したことを表現するなど課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	自分で調べ、自分で考え、生活の中で実践しようとしている。他者の意見を聞いて自分の考えをまとめることができ、課題の解決に対して主体的に取り組み、振り返って改善しようとしている。

(2)評価方法と評定

(a)評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b)評定

前期の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

令和7年度 「フードデザイン」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	通年	普通科・衛生看護科	1～4年次
教科書(出版社)			教材等(学習書等)	
フードデザイン(実教出版)			なし	
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
9(水2)	4	前・後期各1回	前・後期各3回 計6回	

○「フードデザイン」の学習目標

- ・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

○ 学習内容の概要

- 第1章 食生活と健康・・・食事の役割と意義、食を取り巻く現状を学びます。
- 第2章 栄養素のはたらきと食事計画・・・栄養素のはたらき、ライフステージと栄養、食事摂取基準と食事計画を理解します。
- 第3章 食品の特徴・表示・安全・・・食品の特徴と性質、食品の生産と流通、食品の選択と表示食品の衛生と安全を学びます。
- 第4章 調理の基本・・・調理とおいしさ、調理操作、調味操作の技術を身につけます。
- 第5章 調理様式とテーブルコーディネート・・・料理様式と献立、テーブルコーディネートを理解します。
- 第6章 フードデザイン実習・・・献立作成の練習をします。
- 第7章 食育・・・食育の意義と推進活動を学びます。

○ 家庭科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

栄養、食品などに関する知識を身につけるだけでなく、目で見て美しく、五感を満足させ、食事をより美味しく、心豊かにとるために、食事空間全体を演出できるよう工夫していきましょう。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	Rとの対応
1	4	20	日	オリエンテーション 食事の意義と役割	食事の基本的な意義を理解する。 現代の食に関する問題点を把握する。	R1回
2	5	25	日	栄養素、水その他の物質	各種栄養素の特徴と体内ではたらき、代謝について理解する。	R1回 R2回
3	5	28	水	補充スクーリング	2回目のレポートの復習・質問	
4	7	6	日	食品の特徴と性質	食品について、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理に生かす。食事摂取基準、食品群別摂取量のめやすを理解する。	R3回
5	7	27	日	食品の特徴と性質	食品群別摂取量のめやすに基づき、食事計画を立てる。	R3回
後期						
6	10	12	日	食品の特徴と性質 食品の選択と表示	食品について、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理に生かす。加工食品の加工方法や種類、特定保健食品などについて把握する。 食品表示の理解を深め、適切な選択をする。	R4回
7	10	26	日	食品の衛生と安全 調理のおいしさ	食の衛生と安全に配慮できるようにする。 おいしさにかかわる条件を知り、調理に生かす。	R5回

				調理操作	調理方法の具体的な知識と技術を理解する。	
8	11	30	日	料理様式と献立 献立作成とテーブルコーディネート 食育	様式別の食卓構成や食卓作法を理解する。食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択、テーブルコーディネートができる。食育の意義と推進活動を理解する。	R6回
9	12	17	水	補充スクーリング	総まとめ・テストについて	

(1)年間4回のスクーリングへの出席が必要です。

(2)放送視聴は、1回分認められます。(学習の手引きp40～42)

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	28	水
締切日②	2	6	25	水
締切日③	3	7	23	水
後期				
締切日④	4	10	29	水
締切日⑤	5	11	26	水
締切日⑥	6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出したり、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出したりはできません。

○ テスト

	期間	出題内容
前期	7月上旬頃～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポート:第1回～第3回 教科書:第1章から第3章 きのこと類まで
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポート:第4回～第6回 教科書:第3章 海藻類から第7章まで

○ レポートについて

(1)前期3回、後期3回と年間で6回の提出が必要です。レポートを提出すると添削指導をします。

(2)レポートの合格には、すべて解答してあり80%以上正解であることが必要です。

(3)解答欄に空欄がある場合は、再提出をしてもらうことがあります。

(4)合格の場合、次のレポートに進みます。

(5)再提出の場合、間違えた箇所を再度解答し、提出します。合格になれば、次のレポートに進みます。

(6)レポートは全て両面印刷です。3回目、5回目のレポートは2枚目がありますので、よく読んでから取り組みましょう。

○ 評価について

(1)評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技術	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。
思考・判断・表現	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。
主体的に学習に取り組む態度	人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、食育の推進に他と協働して取り組むことができる。

(2)評価方法と評定

(a)評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b)評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

令和7年度 「保育基礎」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	通年	普通科・衛生看護科	1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
保育基礎(教育図書)		なし		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
9(水2)	4	前・後期各1回	前・後期各3回 計6回	

○「保育基礎」の学習目標

- ・保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解する。
- ・子どもを取り巻く課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身につける。
- ・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心を持ち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につける。

○ 学習内容の概要

- 第1章 子どもの保育…保育の意義、保育の環境、保育の方法を理解します。
- 第2章 子どもの発達…子どもの発達の特性、乳幼児の発育と発達を学びます。
- 第3章 子どもの生活…子どもの健康と生活、子どもの食事、子どもの衣服と寝具、子どもの健康と安全を学びます。
- 第4章 子どもの福祉…保育にみる児童観、児童福祉の理念と法規・制度の知識を学びます。
- 第5章 子どもの文化…子どもの文化の意義、子どもの文化を支える場、子どもと遊び、子どもの表現活動を理解します。

○「家庭科」からのメッセージ…(学習の態度・心構え)

子どもがどう発達するのか、どんな保育が必要なのか、子どもに関わる保育者の視点から考えを深めていきましょう。保育に関わる職業について関心を持ち、子育ての現状や支援制度について、意欲的に学んでいきましょう。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	Rとの対応
1	5	11	日	オリエンテーション 保育の意義 保育の環境 子どもの発達の特性	保育には子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解する。家庭及び保育施設について環境の特徴や役割を理解する。身体が発育と心や身体機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解する。	R1回
2	6	8	日	乳幼児の発育と発達	乳幼児期の生理的特徴について理解する。	R2回
3	6	22	日	子どもの健康と生活	基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いと、その具体的な内容を理解する。	R2回 R3回
4	7	20	日	子どもの食事	栄養と食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解する。	R3回
5	8	27	水	補充スクーリング	前期の復習、テスト、後期について	
後期						
6	10	19	日	子どもの食事 子ども衣服と寝具 子どもの健康と安全	近年の幼児に関する食事習慣や健康面の課題を理解する。乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服を選択できるようになる。子どもの健康を守るための保育者の役割や、健康状態の観察方法を理解する。	R4回
7	11	9	日	子どもの健康と安全 保育にみる児童観	子ども特有の病気について知り、落ち着いて対処するための方法を理解する。子どもの福祉の理念	R5回

				児童福祉の理念と法規・制度	について理解し、歴史的な経緯を理解する。児童虐待や貧困などの問題を通じて、子どもの福祉の必要性について自分の考えをまとめる。	
8	12	21	日	子どもの文化の意義 子どもと遊び 子どもの表現活動	子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割があることやその意義を理解する。遊びの重要性や意義、現代の環境、保育者の関わりについて考える。子どもの表現活動の重要性や意義を理解する。	R6回
9	1	14	水	補充スクーリング	総まとめ、テストについて	R6回

(1)年間4回のスクーリングへの出席が必要です。

(2)放送視聴は、1回分認められます。(学習の手引きp40～42)

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	28	水
締切日②	2	6	25	水
締切日③	3	7	23	水
後期				
締切日④	4	10	29	水
締切日⑤	5	11	26	水
締切日⑥	6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出したり、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出したりはできません。

○ テスト

	期間	出題内容
前期	7月上旬頃～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポート:第1回～第3回 教科書:第1章から第3章 離乳食まで
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポート:第4回～第6回 教科書:第3章 幼児食から第5章まで

○ レポートについて

- (1)前期3回、後期3回と年間で6回の提出が必要です。レポートを提出すると添削指導をします。
- (2)レポートの合格には、すべて解答してあり80%以上正解であることが必要です。
- (3)解答欄に空欄がある場合は、再提出をしてもらうことがあります。
- (4)合格の場合、次のレポートに進みましょう。
- (5)再提出の場合、間違えた個所を再度解答し、提出します。合格になれば、次のレポートに進みます。
- (6)レポートは全て両面印刷です。確認して取り組んでください。

○ 評価について

(1)評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技術	子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。
思考・判断・表現	子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。

(2)評価方法と評定

(a)評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b)評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。